

## 成果の説明書

(氏名)井手 拓郎	(学部)地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 研究活動</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 日本学術振興会の科学研究費「基盤研究 C」(研究代表者)採択課題関連<ul style="list-style-type: none"><li>● 「観光地域づくりにおけるリーダーのリーダーシップ-フォロワーの視点からの探索的分析-」『都市計画論文集』単著, 59 巻 2 号, pp.261-274, 2024 年 10 月, 査読有り</li><li>● 高崎経済大学地域科学研究所編『地域を変革するリーダーシップの展開: 現代の地域リーダー像』(日本経済評論社, 2025 年 3 月)において、第 11 章「観光まちづくりにおけるシェアド・リーダーシップ-かだる雪まつりのエスノグラフィー-」(pp.166-196)の執筆を担当した。</li></ul></li><li>◆ 「観光情報サイト閲覧行動の研究: ポスター広告接触と属性に着目して-」『観光研究』共著(竹内雪乃・井手拓郎), Vol.36, No.1, pp.71-76, 2024 年 9 月, 研究ノート: 学術委員会による掲載審査有り</li><li>◆ 2023 年 4 月より、高崎経済大学地域政策学会の監事を務めている。</li><li>◆ 国内学会から査読依頼があり、2 本の論文査読を行った。</li></ul> <p>(2) 教育活動</p> <p>観光産業論・観光まちづくり論・観光地域調査演習という 3 つの科目を担当した。まず、観光産業論・観光まちづくり論については、これまでの履修学生の状況や授業アンケート結果を踏まえてそれぞれ改善を行った。具体的には、講義内容の理解度向上をめざし、情報の優先順位を見直して構成を一部変更した。また、投影するスライド資料の見やすさの改善や、配布用レジュメの記入しやすさの改善を行った。さらに、講義冒頭に出席確認を兼ねた小課題/小テストを導入した。これにより当該回講義内容の導入、あるいは前回講義内容の復習とした。観光を取り巻く社会状況の変化を踏まえながら、次年度も改善を図っていく。次に、観光地域調査演習は開講初年度であった前年度の経験を踏まえ、演習進行のペースを調整しながら実施した。概ね順調に実施できたが、分析結果のまとめ、特に考察の充実に課題が残った。次年度に向け、改善を図る。</p> <p>基礎演習・演習 I・演習 II という 3 つの演習(いわゆる「ゼミナール」)、そして卒業論文の指導を担当した。基礎演習は、演習 I での専門的な研究活動に向け、研究姿勢、論文・レポートの書き方、地域調査にあたって必要なビジネスマナーなどを、学生同士の学び合い(輪読、ディスカッション等)によって習得を図った。演習 I は、グループ研究及び産学協働事業に注力した。グループ研究は所属学生を 3 班に分けて、各班のテーマに応じた社会調査を夏季休暇中に実施した。その結果をグループごとに論文にまとめた。東日本旅客鉄道株式会社高崎支社・前橋駅との産学協働事業(「駅からハイキング」)については、基礎演習履修者も途中から参画する形とし、ゼミナール内において学年を超えた交流を図ることもできた。グループ研究や産学協働事業を通して、いかに工夫して問題解決を行っていくか、履修生は実践面からの学びを得ることもできた。演習 II は、卒業論文執筆のための文献研究から、フィールド調査の実施・結果の分析、そして論文執筆までのプロセスを所属学生間で共有し、各個人の研究でありながら、ゼミナール全体で研究を進めていく雰囲気づくりを行った。それによって卒業論文執筆の後押しを行った。学生・教員の意見交換も適宜行い、論文指導を行った。その結果、11 本の卒業論文が完成へと至った。</p>	

### (3) 社会活動

前述の通り、ゼミナール活動（基礎演習・演習Ⅰ・演習Ⅱ）の一環で、産学協働事業を行った。具体的には、東日本旅客鉄道株式会社高崎支社及び同・前橋駅と協働で、前橋駅起点の「駅からハイキング」を企画・実施した。大きなトラブルなく実施し、参加者をはじめ関係者から好評を得た。

また、教員個人としては、一般社団法人下仁田町観光協会の DMO 事業推進検討会議の座長、及びなんもく村観光協会の顧問を務めている。加えて、一般社団法人安中市観光機構主催の「持続可能な観光シンポジウム」において、パネルディスカッションのコーディネーターを務めた。

## 2 その他の事項

特になし

## 3 次年度以降の計画・抱負

### (1) 研究活動

観光地域づくり法人のマーケティング活動について調査を実施したため、その結果を取りまとめて論文として公表できるよう努める。

### (2) 教育活動

観光産業論・観光まちづくり論・観光地域調査演習においては、重要事項（2）で述べた事柄にアプローチし、履修者の学びがより充実するよう取り組んでいく。また、ゼミナール（演習Ⅱ、演習Ⅰ、基礎演習）においては、学内での学習の充実はもちろんのこと、学外団体との連携プロジェクトやグループでの社会調査に取り組んでいく。さらに、履修者各自の卒業論文の執筆を適切に支援していく。

### (3) 社会活動

重要事項で報告した社会活動に引き続き取り組み、各地域の活性化に貢献していく。